

令和2年度第1回おおた健康プラン推進会議資料 質問・意見票まとめ

1 質問

No.	委員名	質問	回答	担当課
1	馬場委員	「おおた健康経営事業所認定事業」とありますが、 <u>大田区役所内での職員の具体的な健康への取組</u> はどのようなことをしていますか。	区では、健康づくりのための4つのアクション（①適度な運動、②適切な食事、③休養、④喫煙・飲酒のリスクの理解と行動）と健康診断・がん検診の受診を推奨する運動「キラリ☆健康おおた」について、職員向けの電子掲示板を通じ、職員あてに適宜、健康に関する情報提供を行っています。	健康医療政策課
			「はねびよん健康ポイント」は、18歳以上の区内在住・在勤者を対象としていますので、職員に対しても、職員ポータル掲示板等にて、積極的参加を呼びかけています。	健康づくり課
			人事課では、すべての職員が生き生きと働き続けられるよう大田区安全衛生計画を策定し、以下の5つの目標に取り組んでいます。 1 早期発見・早期医療を目指した受診啓発などのがん対策の推進 2 健診結果に基づく保健指導・栄養指導を実施し、生活習慣病の予防と自己管理の推進 3 職員研修や高ストレス者対策などのメンタルヘルスに関する取組みの推進 4 仕事と治療との両立支援	人事課

			<p>策の検討</p> <p>5 職場巡視の実施や過重労働防止対策などの職場環境の改善</p> <p>他にもリフレッシュルームに血圧計を設置するほか、健康管理お知らせ掲示板（職員ポータル）を利用した健康への啓発活動を行っています。</p> <p>（例）安全衛生ニュース発行、感染症予防対策の励行、プラス・テン（+10）運動の推進等</p>	
2	菅委員	<p>飲酒についての取組がほとんどない。</p> <p><u>ストレスによるキッチンドリッカーの増加や、コロナ状況下での飲酒量増加などについての対策はなくて良いのか。</u></p>	<p>コロナ禍での取り組みとして、12/11号の区報で「コロナ禍でも気を付けたいお酒の飲み方」と題し、適正飲酒を呼びかけるとともに、こころの体温計アルコールモードに誘導する内容を掲載しました。</p> <p>アルコールの飲み方については、これまでもホームページ等で注意などを示してきたところです。家庭内における飲酒の問題について、引き続き普及啓発に努めてまいります。</p>	健康づくり課
			<p>（大森）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年1回依存症に関する講座を開催しています。R2年度は11月にアルコール依存に関する講演会を開催し、社会の状況に合わせた情報の普及啓発に努めました。 ・コロナ禍による生活スタイルの変化に伴う飲酒の危険性について、来庁者向けのポス 	地域健康課

			<p>ターを作成し、庁舎内に掲示しました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保健師、精神保健福祉士、医師による個別相談を随時実施しています。 <p>（調布）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・精神科医師、保健師による個別相談で対応しております。今後は健康教育の場を活用して、リーフレットによる啓発を考えております。 <p>（蒲田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「出産・育児支援事業かるがも」面接時に、妊娠届出書の飲酒項目にチェックのある妊婦さんへ状況を聞き取り必要な指導をしています。乳幼児健診時や電話など、随時、相談に応じています。 <p>（糀谷・羽田）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症拡大の影響でグループミーティングは中止していますが、精神科医師、精神保健福祉士、保健師による個別相談で対応しております。今後もホームページや区報等で相談体制をご案内するとともに、依存症相談事業を通じて不安や孤立の解消に対応してまいります。 	
--	--	--	---	--

2 意見

No.	委員名	意見	関係各課
1	佐藤委員	従来より、保健所・健康政策部と歯科医師会との間で、口腔ケアと全身疾患との関連について議論を進めてきました。特にビッグデータを基に歯周病と糖尿病重症化について健康プランにおいて言及されたことは大変喜ばしいことです。今後、誤嚥性肺炎と同様に指標項目となり区民への啓蒙が進むことを望んでいます。	健康づくり課 地域健康課
2	佐藤委員	特に学校保健の現場においては、虫歯の氾濫と言う時代は過ぎ去っています。 一人当たりの虫歯数は既に1本を下回っており、歯列不正・口腔機能発達不全にスポットが当たり始めています。次期策定の際にはこの辺りを議論していく必要性を感じます。 また、虫歯の数は減ったとは言え学校検診の場で一人で数本以上の歯があり、学校からの受診勧奨にも反応がなく年々状況が悪化している児童を時々見受けます。一種ネグレクトとも思える事例もあり、母子保健の分野との連携も考慮すべきかと思えます。	健康づくり課 地域健康課 学務課 子ども家庭支援センター
3	佐藤委員	骨粗鬆症の治療に使用される薬剤、特に BP(ビスフォスフォネート)製剤を投与されている患者さんの中で、口腔外科処置後に顎骨壊死を起こす例が報告されています。 頻度は低いですが、一旦発症すると一般歯科では対処が難しく、高次の医療機関に委ねざるを得ません。また、処方薬の注意書きにはその危険性が謳われ、患者さんが自己判断で服用をやめてしまったり、休薬について医科・歯科の担当医同士のトラブルが起きたりもしています。これは、医師・歯科医師・患者それぞれのこの事象への理解不足に起因しているものと思われます。現在、医師会と歯科医師会では共通の情報提供書を作成し連携を図っています。 骨粗鬆症検診の開始に伴って、6月に開催予定だった区民講座も中止となりましたので、改めてこの件に対する啓蒙政策をお願いいたします。	健康づくり課 地域健康課
4	桑田委員	コロナ下緊急事態宣言中はともかく解除後でも運動やスポーツを行う活動場所確保に困難を極め極端に機会が制限されることで、一般的にも言えることですが、私のクラブに所属する子供から高齢者まで心身の不調を訴える者が散見し、体力低下、体重増加、フレイル増等々の問題が発生しました。今後の対策として運動施設管理方法の抜本的な見直しが必要かと思えます。特に、小中学校の運動施設において、今までの延長線上での運用でなく、安全を第一に継続的に安定した確実性のある管理体制を、官民	健康づくり課 スポーツ推進課 都市基盤管理課 学務課

		協働で行える体制づくりが求められます。一方、公園での密状態の解消方法やステイホームで家族が家にいる時間が長くなる中、外遊びの方法の習得等が求められるとも考えております。	
5	桑田委員	地域で安全で継続的にスポーツや運動ができる環境づくり、場所の確保、良質の指導者の確保(ソフト)、それらをマネージする地域でのマネジメント組織及びマネージできるリーダー的人材の育成が重要で、既存の団体や組織の良さを連携できる支援組織が必要だとも考えます。	健康づくり課 地域力推進課 スポーツ推進課
6	桑田委員	取り組みシートでの各項目多彩で実行に当たり大変なご苦労に敬意を表します。傾向的には行政で作成した政策の情報発信が中心となっていると思いますが、上述しましたように場の継続性を担保するためには、地域ごとでのマネージ機能が不可欠と考えます。行政を中心に既存各組織の活性化も重要であります。行政の縦割りを組織間横断的にマネージする民間組織機能を行政連携で創設していくことが新しい生活形態での運動・スポーツにとって必要となると考えます。行政が全て抱えて行うのではなく、地域の専門家、プロ組織と官民協働で行える体制づくりが今後の大きなテーマと考えます。	健康づくり課 地域力推進課 スポーツ推進課
7	馬場委員	コロナ禍で大変な時期ですが、却って時間を作る事が出来、ウォーキングやサイクリングなど、運動をする機会が多くなりました。その時気付いた事ですが、マナーの良い方と悪い方が明確に分かりました。行政側からもマナー啓発のかっこいいポスターなどをより一層多く出して欲しいと感じました。	健康づくり課 スポーツ推進課 都市基盤管理課
8	三木委員	全体としては概ね理解できるが、資料1の健康づくりでは、「はねぴょん健康ポイント」について区民に再度広報を徹底することを望みます。 また、食育については、特に児童・保護者に対して「早寝早起き朝ごはん運動」の再提起をお願いしたい。 自殺対策については、心のケアが大事だが今日のコロナ禍において、人との繋がりをどのように行っていくかがこれからの課題と思う。	健康医療政策課 健康づくり課 指導課
9	塚越委員	啓発施策のイベント・セミナーには限界があることがコロナ禍で露呈したので、デジタルとアナログの両面から、日常生活の中で継続的に周知・啓発できる工夫が急務である。	各課共通

10	村委員	<p>コロナ禍の中、生活自体が大きく変化する中、コミュニティの中で健康に暮らすために日々の運動、食事の大切さを周知し、実行する手立てを用意することがいつにも増して重要になると改めて思いました。自殺に悩む人が増加しておりますが、ソーシャルディスタンスや外出制限の中、互いの様子を気にかけること、声をかけたり話をするなどが難しくなっています。孤立しがちな方々への訪問は難しくなるでしょうから、対面以外に受け手が受け取ることを選択できるような SNS、回覧版、手紙、メールなどのツールを利用して関係性が途絶えないようにするとよいと思います。</p>	<p>(健康政策部) (福祉部)</p>
11	五十嵐委員	<p>おおた健康経営事業所認定については、中小企業の中では、リクルート活動に有利になることから、コロナ禍であっても実施してほしいという声を聴く。是非、2021 年は再開してほしい。 (コロナ禍でも、感染者がゼロを継続するなど、感染予防に努力している企業もあり、健康に対する意識がむしろ高くなっている事業所も多い)</p>	健康医療政策課